

希望の在処

待つ人たちの肖像

古巣馨

もがらふえ
虎落笛を聞きながら

戸をたたく
あれはお父だべか 風だべか
(青森県八戸市小学五年生の詩)



●ふるす・かおる
1954年長崎県五島市生まれ。1981年初来日当時の教皇ヨハネ・パウロ二世より司祭叙階。カトリック長崎教区司祭。現在長崎大司教区法務代理、長崎純心大学教授、カトリック神学院講師、司教協議会列聖委員会委員、長崎刑務所教誨師等を務める。

車のラジオから漏れ聞こえた一句を、思わず路肩に寄せて書き留めました。「正月には帰るね」、出稼ぎの父からの便り。母と子に届いた知らせは、確かな約束でした。そのときから、子は目覚めて用意する人(マタイ24・44、25・13)になります。

虎落笛が締めりの悪い雨戸をゆすります。
「あつ、お父だ!」

飛び起きた子は玄関口に立ち、耳を澄ませ必死にお父の気配をうかがいます。
「ああ、風だべかあ」

りで揺れて帰るのです。これが、約束を支えに生きる「神の人」(二テモテ6・11)たちなのでしょう。神は人とかかわりを「荒れ野」に指定します。旧約のシナイの旅が前表になっているのでしよう。むき出しの土(創世記2・7)と身の隠し処もない不条理な世界(同3・10、18)。人は、しかし初めてそこであわれみの神と出会い、生きる意味を教わります。地面に顔がつくほど物腰の柔らかい人がいます。あきれるくらいはか正直でまっすぐな人がいます。そこまですなくても思うくらい気前のいい人がいます。イエスが語る「幼子のような者」(ルカ10・21)たちです。

初めからそうだったのではありません。彼らは荒れ野を通って来たのです。打ちのめされた人生を、裸足で泣きながら(サムエル下15・30)下っていくうちに、「自分を無にして……へりくだった」(フィリピ2・7~8)方によって、まっすぐ平らにされたのです。これが、約束を待つ人が神へと向かう道であり、約束を交わした神が人のところへ訪れる道でもあります。

身の回りの一つひとつが、約束を叶える合図に変わるのです。待つ人と待たれる人の営みは、どこか悲哀を漂わせながらも、透明で希望に満ちた確かな世界性をもっています。真実味のない言葉が日々の暮らしを紡いでいるせいでしようか、実現する言葉に出会うと「光」(創世記1・3、ヨハネ1・14)を観る思いです。

ここで待ってるからね

夕方五時、浦上天主堂前のバス

布にくるまって

天を仰いで涙があふれるのは、言葉にできない大きな喜びに出会ったからです。そのときから人は「新しい歌」(詩編96・1)を謳います。

夜露が音もなく大地を潤すように(詩編72・6)、ルカはイエスの誕生を歴史の片陰の「こまのよう」に淡々と伝えていきます。多くの仕

停のベンチにはいつも正美ちゃんがあります。パートから帰る母を、バスの来る方角を見ながら足をぶらぶら揺らして待つのが正美ちゃんです。

おぼつかない足取りで身体をゆすりながら近づき、そっと私の手を握った小さなダウン症の女の子、それが初めて出会った六歳の正美ちゃんでした。あれから三十七年、四十三歳になった正美ちゃんは今も小さく、少し白髪も交じり始めています。

「正美ちゃん、今日も待って」と

方で準備されてきた約束(ヘブライ1・1~2)の実現はひそやかに進んでいました。神が介入するときのやり方です。単純でなければ「しるし」にはなりません。だれもがわかるためです。

「布にくるまって飼葉桶の中に寝ている乳飲み子」(ルカ2・12)、長い準備の末、そぎ落とされた「救い主のしるし」はたったこれだけになりました。しかし、同じように布にくるまって野宿する羊飼いは十分過ぎるほどのしるしでした。

居場所のない人たちの間に「泊まる場所のない」神が住まわれたのです。ただ布にくるまって震えて生きるしかない人たちに、ときおり見え隠れするあの豊かさはどこからくるのでしょうか。神が貧しさをご自分の居場所にされたときから、「貧しさは神祕」(フィリピ2・

「うん!」
「五時過ぎたね。遅れとつとかな」
「うん!」

その深く澄んだまなざしは、六歳のころと同じです。

「正美、ここで待ってるからね」
かつて特別支援学校に通う正美ちゃんを母はそう約束して送り出し、夕方五時にはきまつてそのバス停で待っていました。「私が逝くとこの子はどくなるのか」、バスを待つ間に母はなんと涙を拭いたかしれません。爪に火を点すような慎ましい暮らしは、七十歳になつた母に息つく暇を与えてはくれません。

「お母さん、ここで待ってるからね」
今、正美ちゃんが待つ人になりました。時間どおりに来ないバスを今か今かと待っている間に、ときどき正美ちゃんも涙を拭うのです。やっと到着したバスのドアが開くと、待つ人と待たれる人の間に光が生まれます。手をつないだ親子は隣の市場で買い物を買ったと、何が可笑しいのか口に手をあてて笑いをこらえながら、ふた

6~8)になりました。天を仰いで涙を拭う人たちは、どこか静かです。その静けさが深い優しさにつながっています。神の豊かさに与っているしるしなのかもしれません。末期がんを生きる絹代さんが語ってくれました。

「もうあきらめていました。でもこの前の手術のとき、担当の先生の言葉ではっとしました。『私がついていきますから大丈夫ですよ。私がいいますから安心してください』」

その言葉はまるで麻酔のようでした。私も若いころ主人にこの言葉をささやかれ、また子どもたちをこの言葉で励ましてきました。でも、がむしゃらに生きていたらいつの間にか心はささくれ、家族の絆もほころんで気づいたら一人になりました。

人間いくつになってもみんなこの言葉を一番深いところで求めているんでしょうね。だれかが一緒にいるとわかると、どんな苦労でも来いという気持ちになるから不思議です。イエスさまがお生まれになったわけがわかりました。ああ久しぶりに笑いました。やっ



ベルナルド・ストロツィ「羊飼いの礼拝」

私になりました」

そぎ落とされ、ただ待つだけの人
が、「あなたを忘れない」(イザヤ49・15)と約束した神を迎えたとき、初めて「私になる」のです。

どうにでもなれと思って生きて

来た日は いつも雨だった

どうにかなると思つたら 空が
晴れた (徳末恵子)

先天性脳性まひの後遺症を生きた
恵子さんが謳いあげた新しい歌
です。

希望の系譜

涙を拭いながらバス停で母を待
つ正美ちゃん、布にくるまって震
えながら同伴者を待つ絹代さん、
そして、恵子さん。たどれば日本
の教会が手渡してきた希望の系譜
に組み込まれた人たちです。

「目を上げて、わたしは山々を仰
ぐ。わたしの助けはどこから来る
のか。わたしの助けは来る 天地
を造られた主のもとから」(詩編
121・1-2)

百五十二年前、大浦天主堂でお



きた「信徒発見」という出来事は、
生涯つきまとう「待つ」という人
生の根本的な問いに対する神から
の答えでした。二百五十年にわた
る踏絵、宗門改め、寺請制度……、
これほど過酷なキリスト教根絶の
施策は世界に類を見ません。それ
でも密かに受け渡されたのは、「目
覚めて待つ」という名の希望でし
た。

「七代経てばローマからコンヘン
ーロが遣わされる。そうしたら、
大きな声で祈りを唱え讃美の歌を
謳える」(バスチャンの予言)

二百五十年におよぶ希望の系譜
の通奏低音は「記憶」です。信じ
たことをふるいに掛けられた「崩
れ」(キリシタン検校事件)のときも、
「然り」と「否」(マタイ5・37)が
溶けて混じり合うほど何の変哲も
ない潜伏の日々も、素朴に信じる
者たちの心を励まし、慰撫し、あ

るいは揺るがしたのは受け渡され
た鮮やかで細やかな記憶でした。
信仰の「記憶は死に対する部分的
な勝利」(カズオ・イシグロ)だと信
じて疑いませんでした。

ただ七世代の間、最初からの
記憶が擦り切れなかったのは、手
渡された約束が信じる仲間同士の
共通の記憶となったからです。
個々の記憶は、同じことを別々の
違った意味で受け止めるものです。
やがて、不確かな記憶はついて
しまい、そして希望もしほびます。
「ワレラノムネ アナタノムネト
オナジ」(杉本ゆりの告白)
「はい、私たちも家庭では、オナ
ジことを聞かされてきました。少
しも違ひませぬ」(外海の若者たち
の告白)

「ローマのお頭さまのお名前は？
あなたのお子さんは？」(カトリッ
ク司祭のしるしを確認した際のペトロ
西政吉の質問)

信徒発見は日本の教会が手渡し
てきた共同体のオナジ記憶と約束
の確認作業から始まっています。
やがて、目覚めて用意していた人
たちは「時の使者」の合図に合わ
せ、くるまっていた布を脱ぎ捨て

(マルコ10・50)小躍りしながら一
つ処に集うのです。そこには、「キ
リストを伝える」という絶えるこ
とのない仲間内での祈りと教育が
ありました。育まれたオナジ記憶
が確かな希望となったのです。叶
わないことはたくさんあります。
それでも願って待ち続けたら、も
っと素晴らしいことが叶えられま
した。ここに日本の教会の心象風
景があります。

「信仰は孤立した行為ではありません。
一人で生きることができな
いように、だれも一人で信じるこ
とはできません。自分で自分に命
を与えることができないように、
だれも自分に信仰を与えることは
できません。信仰者は、信仰を他
の人から受け取りました。それを
他の人に伝えなければなりません」
(「カトリック教会のカテキズム」
166)

希望も同じです。今あなたは何
を待ちながら生きていますか。あ
なたの希望のありかはどこですか。
どうかまた、希望の系譜に身を
置くことができまように。あなた
が、心から笑えるあなたでありま
すように。